

# まちの話題

## 昔の豆腐の味を再現！ 沖縄在来種の大豆を使って、豆腐作りに挑戦！

西原南小学校で沖縄在来種の大豆を使った豆腐づくりが5月25日に行われ、5年生55名が挑戦しました。今回使用した大豆は、沖縄県農業研究センターで保存されている沖縄在来種を譲り受けて栽培されたもの。児童たちは3年生のときに植付け、4年生で収穫と脱穀を体験しました。

この日の豆腐づくりには、町内の料理教室に通う人たちが結成する「エスカルクラブ(当山孝吉会長)」が、食育の一環としてボランティア指導にあたりました。「エスカルクラブ」のメンバーを指導した安谷屋純一さん(エスカルクッキングスタジオ主宰)は、「沖縄にとって豆腐は県民食なのに、原料の大豆の自給率は1%ほど。大豆と豆腐を通じて、子どもたちに沖縄伝統の食文化を学んでほしい。」と語りました。児童たちは、昔の沖縄の人が食べていた豆腐の味を堪能し「いつも食べているものよりおいしい。」「汁までおいしい。」「大喜びで、「5回おかわりした!」と誇らしげに報告する児童もいました。



## マリントウンをみんなでお掃除！ ちゅら島清掃活動

夏を中心に多くの方が訪れるマリントウン地域の清掃活動を行い、たくさんの人をきれいな西原町で迎えようと、6月9日にちゅら島清掃活動が実施されました。

清掃活動には各種団体や企業、スポーツ少年団などを中心に300名余りが参加。あがりティータ公園を中心に周囲のゴミ拾いや除草を行い、930kgのゴミが集められました。

また今回の清掃活動に対し、沖縄森永乳業(株)から飲み物の提供があり、終了後に参加した子どもたちに配布されました。



## 子どもたちの手で、さくらの木を植樹！

植樹活動を通じて、土や木に触れ自然を体感し、子どもたちの自然を大切にしたいと地域を愛する心を育むことを目的に「西原町子ども会グリーンプロジェクト」が5月27日に町立図書館で実施されました。プロジェクトは西原町子ども会育成連絡協議会(比嘉良富会長)の主催で実施され、約50人の親子がさくらとイッペーの木の植樹に参加しました。



参加した子どもたちは軍手をはめた手で、植樹のために木の葉を落とす作業などに一生懸命取り組みました。木は重機を使って、町立図書館の正面玄関前広場に植樹され、参加した子どもたちは桜やイッペーの花が満開になるよう、願いを込めました。

## なぎなた県大会で 金城さん・山田さんがNo.1に

5月20日に第29回沖縄県小学生・中学生なぎなた大会が与那原小学校で開催され、演技競技の小学1・2年生の部で金城優さん(西原南小2年)が、同小学3・4年生の部で山田蒼彩さん(西原東小4年)が優勝しました。県大会を制覇したことで金城さんは「初めての優勝で、嬉しい」と喜び、山田さんは「次の大会でも優勝目指してがんばりたい」と力強く語りました。山田さんは個人試合でも2位に輝き、今大会は各部門で町内の小学生が活躍しました。その他の結果は以下のとおりです。

《演技競技》3・4年生の部3位 山田望来・新川珠羽(ともに西原東小4年) / 5・6年生の部3位 玉那覇優風・新川羽蘭(ともに西原東小4年)  
《個人試合》4年生の部3位 山田望来 / 6年生の部3位 安次嶺心(西原東小6年)  
《団体試合》3位 石原かのん(西原東小6年)・安次嶺心・玉那覇優風・新川羽蘭



## 沖縄の伝統野菜の生産を、 連携して取組みます

沖縄で昔から食されている「沖縄伝統野菜」の生産振興を連携して取組むため、「おきなわ伝統野菜生産振興取組」に関する記者会見が、5月25日に県庁記者クラブで行われました。

会見には西原町と中城村、県中央卸売市場、JA、(株)サンエーが出席。生産振興と産地の育成を図り、各団体の取組みを推進するため、プロジェクト会議を開催して情報共有や意見交換等を行うことなどが説明されました。

西原町では現在、年々増加する耕作放棄地の解消に取り組んでおり、農地の集積や有効活用を目指しています。その一環として、沖縄の伝統的島野菜であるシマナーなどを生産しており、今回の会見では上間明町長が、生産や販路の拡大等に関係機関と連携して取組むことを発表しました。



## 交通安全お守り「ぶじかえるくん」が 新1年生に贈られる

町内3児童館のファミリークラブが、この春入学したばかりの新1年生の児童の交通安全を願ってお守りを作成しました。お守りは「子どもたちが無事におうちへ帰ってくる」ことにかけて、カエルのイラストがあしらわれており、会員の保護者などが一つ一つ手作りしたものです。

5月10日に西原東小学校で行われた贈呈式には、西原東児童館ファミリークラブの代表から各小学校の新1年生へお守りが手渡され、保護者たちは「大切にランドセルにつけてね」と、児童たちに優しく声をかけていました。お守りは町内小学校4校に388個プレゼントされました。



▲ぶじかえるくん



## 建設業界の現状を学び、商工業の振興を図る —公共事業執行計画等説明会—

町が計画している公共事業の執行計画を説明し、地元事業所の入札参加や受注機会の拡大を図ることを目指して「平成24年度西原町公共事業執行計画等説明会(町商工会主催)」が、6月8日に西原共同福祉施設(町商工会ホール)で開催されました。

事業説明に先立って、県内の公共事業や建設業界に精通する大久勝氏((株)沖縄建設新聞代表取締役社長)が講演を行い、公共事業や米軍発注工事、不発弾対策や一括交付金の活用などの現状を話しました。大久氏は、県内建設産業の将来像を示すために県が策定した「沖縄県建設産業ビジョン」に触れ、「今後目指すべき方向性が示されており、その実効性の確保のため『沖縄県建設業審議会』が設置された。」と説明。「町の公共工事は県や国の施策とつながっている。その状況を把握しないとこれからの時代に生き残ることができない。」と参加者を激励しました。

説明会には、約60の事業所が参加。町内事業所の業績が厳しい状況にある中、町役場の関係課からの事業の説明を熱心に聞きました。



▲大久勝氏

## 金秀グループが創業65周年を記念し、 人材育成のために寄附

金秀グループ(呉屋守将会長)が5月25日に創業65周年を迎えたことを記念し、町人材育成会(上間明会長)へ100万円、町社会福祉協議会(新川善昭会長)に30万円など、12の団体に寄附金を贈りました。寄附にあたり呉屋会長は「沖縄の将来を担う人材の育成に役立てる各機関で活用してほしい。」とあいさつしました。また、グループの創業者で字我謝出身の呉屋秀信さんが、母校の西原中学校に50万円を寄附しました。

寄附金の贈呈式に引き続いて、創業65周年の記念式典が行われ、多くの関係者が出席しました。

